

令和5年度全国学力・学習状況調査における

北九州市立 赤坂 小学校の結果分析と今後の取組について

文部科学省による「全国学力・学習状況調査」について、令和5年4月18日（火）に、6年生を対象として、「教科（国語、算数）に関する調査」と「児童質問紙調査」を実施いたしました。

この度、本年度の調査結果を分析し、今後の取組についてまとめましたので、お知らせいたします。

学校の現状を知っていただくとともに、ご家庭での取組の参考にさせていただきたいと思っております。

なお、本調査により測定できるのは、学力の特定の一部であり、学校における教育活動の一側面に過ぎません。本校では、他の教科等も含め、総合的に学力向上を目指しています。

1. 調査の目的

- (1) 義務教育の機会均等とその水準の維持向上の観点から、全国的な児童生徒の学力や学習状況を把握・分析し、教育施策の成果と課題を検証し、その改善を図る。
- (2) 学校における児童生徒への教育指導の充実や学習状況の改善等に役立てる。
- (3) そのような取組を通じて、教育に関する継続的な検証改善サイクルを確立する。

2. 調査内容

- (1) 教科に関する調査（国語、算数）

教科に関する調査（国語、算数）

- ① 身に付けておかなければ後の学年等の学習内容に影響を及ぼす内容や、実生活において不可欠であり常に活用できるようになっていることが望ましい知識・技能等
- ② 知識・技能等を実生活の様々な場面に活用する力や、様々な課題解決のための構想を立て実践し評価・改善する力等に関わる内容

※調査では、上記①と②を一体的に問うこととする。

- (2) 児童質問紙調査

児童質問紙調査

- 学習意欲、学習方法、学習環境、生活の諸側面等に関する調査

3. 教科に関する調査結果の概要

- (1) 全国・本市の学力調査（国語、算数）の結果

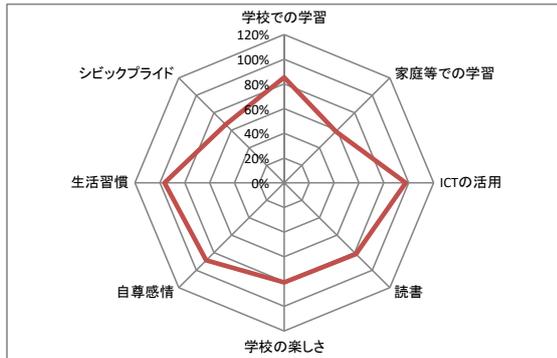
本年度の結果	国語		算数	
	平均正答数	平均正答率	平均正答数	平均正答率
本市	9.3	66	9.4	59
全国	9.4	67	10.0	63

(2) 本校の学力調査結果の分析

国語	全体的な傾向や特徴など	「言葉の特徴や使い方に関する事項」「情報の使い方に関する事項」の領域は概ね良いが、「書くこと」の領域はかなり課題が見られる。	全国平均正答率との比較 下回っている
	よくできた問題	送り仮名に注意して、漢字を文の中で正しく使うことができる。	
	努力が必要な問題	目的を意識して、中心となる語や文を見つけて要約することができる。 目的に応じて文章と図表など結びつけるなどして必要な情報を見つける。	

算数	全体的な傾向や特徴など	「数と計算」「変化と関係」「データの活用」の3領域についてはやや下回っている。「図形」領域については、かなり課題が見られる。「記述式」の問題についても課題が見られる。	全国平均正答率との比較 下回っている
	よくできた問題	伴って変わる二つの数量について、表から変化の特徴を読み取り、表の中の知りたい数を求めることができる。	
	努力が必要な問題	高さが等しい三角形について、底辺と面積の関係をもとに面積の大小を判断し、その理由を言葉や数を用いて記述できる。	

4. 学校での学習活動、家庭での生活習慣等に関する質問紙調査結果の概要



質問紙調査の結果分析	
<ul style="list-style-type: none"> ・家庭等での学習には課題がある。自分で考えて、計画を立てて学習時間を確保することは難しい状況にある。平日だけでなく、休日に学習をさうる児童は少ない。 ・学校の時間を含めて読書を自主的にする児童は少ない状況にある。 ・自分たちの住んでいる地域に対する愛着心は高くない。地域の行事に参加する児童は少ない。 ・学校での学習には多くの児童が前向きに取り組んでいる。しかし、自分の考えを資料等を活用して相手に伝えるように話すことには課題を抱えている。 	

5. 調査結果から明らかになった、課題解決のための重点的な取組

① 教科に関する取組

- ・自分の考えをしっかりとまとめて、いかにして相手に伝えたらよいかについて「思考の仕方」を接続詞の活用に特化して指導する。(思考の仕方の基本を学ばせるようにする)
- ・自分の考えを書いたり、話し合ったりする活動を学習時間の中に位置づけ、継続した指導をする。

② 家庭生活習慣等に関する取組

- ・家庭学習については、「赤坂小家庭学習メニュー」を全校に配布し、各クラスでよいノートなどを紹介したり学期末に校長が「家庭学習マイスター賞」の表彰を行うなどして家庭学習に対する意欲付けを行う。
- ・朝読書の時間を毎日設定し、読書の楽しさを味わわせる活動を継続して行う。